

発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

「歎喜院聖天堂」が国宝に指定

平成 24 年 5 月 18 日（金曜）に国の文化審議会から文部科学大臣に対して、妻沼聖天山の本殿である「歎喜院聖天堂」は国宝に指定するにふさわしいとの答申が出されました。同年 7 月 9 日（月曜）の官報にて告示があり、同日付で正式に国宝として指定されました。

歎喜院聖天堂は、享保 20 年（1735）から宝暦 10 年（1760）に掛けて、林兵庫正清及び正信らによって建立されました。これまで知られていた彫刻技術の高さに加え、修理の過程で明らかになった 5 種類（黒・赤・黄・緑・こげ茶）の漆の使い分けなどの高度な技術が駆使された近世装飾建築の頂点をなす建物であること、またそのような建物の建設が民衆の力によって成し遂げられた点が、文化史上高い価値を有すると評価されました。

日光東照宮の創建から百年あまり後、装飾建築の成熟期となった時代に、棟梁の統率の下、東照宮の修復にも参加した職人たちによって、優れた技術が惜しみなくつぎ込まれた聖天堂は、「江戸時代建築の分水嶺」とも評価され、江戸後期装飾建築の代表例です。聖天堂は、建築様式は、奥殿と拝殿を中殿が結び付ける「権現造り」であり、その三つの建築の各所に、多くの彫刻が施されています。それらの彫刻は、上州花輪村（現在の群馬県みどり市）の彫刻師であった石原吟八郎を中心に制作されたものです。

その後、風雨にさらされ、聖天堂の彩色の多くは失われてしまいましたが、平成 15 年から保存修理工事が実施されました。8 年間の歳月と約 11 億 5900 万円（周辺工事を含めると約 13 億円）の費用をかけ、工事は無事に終了しました。平成 23 年 6 月からは一般公開が行われています。この度の国宝指定は、本県の建造物として初の荣誉であり、昭和 25 年の文化財保護法の制定以降、熊谷市においては初めての国宝指定となります。（歎喜院聖天堂へのアクセス等は最終ページをご覧ください。）



鷲と猿（奥殿南側）

文化庁長官が熊谷市内を視察



7 月 4 日（水）、文化庁の近藤誠一長官が熊谷市内の文化財を視察しました。

午前は、市指定名勝「星溪園」、文殊寺（野原）にある市指定有形文化財建造物「仁王門」などを視察しました。その後、熊谷市立吉岡小学校にて長官との会食が行われ、給食を食べながら、児童との楽しい語らいの時間を過ごされました。

午後は、県指定天然記念物「元荒川ムサシトミヨ生息地」にて水辺環境を見学された後、妻沼聖天山を訪れ、国宝指定の「歎喜院聖天堂」や重要文化財「貴惣門」を視察しました。歎喜院聖天堂では、ガイドボランティアからの説明を受けながら、極彩色の彫刻をじっくりと鑑賞されていました。

市内遺跡発掘情報

別府地内試掘調査

別府地内の熊谷スマートタウン整備事業に伴う在家遺跡の試掘調査を、平成24年4月19日から5月22日まで行いました。調査対象面積は18,000㎡で、トレンチ22本を掘削し、試掘調査面積は約1,000㎡です。

調査の結果、平安時代の住居跡26軒、土坑18基、ピット、溝等が確認され、本調査地区は、平安時代の集落跡と判断されます。出土遺物は、大半が平安時代の土師器・須恵器ですが、古墳時代の円筒埴輪片1と、中世の板碑片1も出土しており、この時期の遺構は確認できませんでしたが、トレンチ外に遺構が存在している可能性もあります。



前中西遺跡「弥生時代の竪穴住居跡を発掘！」

7月上旬、市内上之の前中西遺跡において個人住宅建設に伴う緊急の発掘調査を実施しました。

今回の調査では、遺跡の主体となる弥生時代（約2,000年前）の竪穴住居跡（右写真）が1軒見つかりました。北西隅を含む4分の1程の検出でしたが、床面からは炉跡やピットとともに良好な土器が数個体出土しました。また、西壁からやや離れて溝が巡っていたことから、拡張が行われていたことも確認されました。



企画展「わが街熊谷遺跡めぐり」王子西遺跡



王子西遺跡は、弥藤吾地内に立地する遺跡で、平成23年9月～10月にかけて店舗建設に伴う発掘調査として実施しました。調査面積は約200㎡で、主な遺構として、平安時代の住居跡・溝跡・土坑等が確認されています。

今回の展示では、平安時代の土器（土師器）・土錘・鉄製鍵（左写真）・鉄鏃等を展示しています。本遺跡は、平安時代の集落跡で、鉄製鍵が出土していることから、重要物品を納めた倉庫が存在し、一定以上の階層に属する人物・機関が存在したことが推測されます。12月3日（月）まで展示しています。

連載 くまがやの古墳群

④ 中条古墳群

中条古墳群は、上中条、今井、小曾根、大塚地区の妻沼低地の自然堤防上に所在する古墳時代前期末から後期にかけて長期間にわたって造られた古墳群です。古墳群は四群に分けられ、現在39基が確認されており、そのほとんどは水田面下で発見され、大きな墳丘が見られるのは大塚古墳の1基のみです。

北の上中条支群には、重要文化財「短甲武人埴輪」・「馬形埴輪」（東京国立博物館所蔵）が出土した古墳など、6～7世紀前半の12基の古墳があります。（右写真：短甲武人埴輪 写真提供：独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館）

中央の今井支群には、墓前祭祀跡（出土土器は県指定有形文化財）が発見された5世紀末の鎧塚（よろいづか）古墳、人物や動物など多数の形象埴輪等が出土した6世紀前半の女塚（めづか）2号墳など、5世紀末～6世紀の7基の古墳があります。西端の小曾根支群には、直刀や金銅製飾り金具等（東京国立博物館所蔵）が出土した7世紀初頭の小曾根神社古墳など、主に7世紀前半の3基の古墳があります。南の大塚支群には、金銅装の靱尻金具（さやじりかなぐ）や挂甲小札（けいこうござね）等が出土した精緻な石組の横穴式石室が確認された7世紀後半の大塚古墳（市指定史跡）など、4世紀末～7世紀後半の17基の古墳があります。

中条古墳群から出土した埴輪は、全国的に有名なものが多く、当時の生活や、古墳での葬送がどのように行われたか推定できる貴重な資料が多数出土しており、熊谷市内でも有数の古墳群です。



文化財センター通信

文化財保護審議会を開催

平成24年6月26日、平成24年度第1回の会議が開催されました。会議では、平成23年度事業や歓喜院聖天堂の国宝指定の報告、平成24年度事業計画、市指定文化財の市区域に存しなくなった場合の取り扱い、第5回地域伝統芸能今昔物語の開催などについて審議しました。



第一本町区山車修繕

6月から7月に掛けて、熊谷うちわ祭第一本町区所有の「山車」(市指定有形民俗文化財)の修繕が行われました。山車の構造は、車輪及び囃子方が乗る屋根付きの下部、鮮やかな水引幕が掛けられる中部、人形が置かれる上部の三階層に分けられます。通常の保管時は下部のみの高さですが、祭の際の叩き合いなどの際には、最上部まで引き上げられ山車の勇壮な姿が現れます。第一本町区は昭和初期以降、鉄レンジを回すことで山車の高さを変える方式を用いていましたが、今回の修繕にて、「芋環」(おだまき)と呼ばれる綱を引っ張り滑車の原理を生かして昇降させる旧来の方式に復元しました。



第2回平山家で楽しむほたるの夕べ

6月9日、国指定重要文化財「平山家住宅」(熊谷市樋春)において「第2回平山家で楽しむほたるの夕べ」が開催され、薄茶のお点前(江戸千家)や箏曲演奏、大正大学天台学研究室による「声明(しょうみょう)」が披露されました。また、併せて地場産品の販売が行われました。当日は雨天で残念ながら蛍を目にすることはできませんでしたが、約140名の参加者はお経の詠歌から表現される仏教世界をじっくりと堪能していました。

フォーカス 甲山古墳市民協働事業について

平成24年度市民協働「熊谷の力」甲山古墳美化事業が採択されました。市内青山地区にある甲山古墳(右写真)に、地元のボランティア団体「甲山古墳を守る会」と協働して遊歩道を作り、枝垂れ桜やユリを植栽して整備する予定です。

また、甲山周辺の案内板や地図の作成、ボランティアガイドを育成し、地域の文化財や見所について情報発信をしていきます。



文化財探訪 竹井澹如の関連文化財—没後100年を迎えて

本年は竹井澹如(右写真)の没後100年となります。澹如は、群馬県に生まれ、熊谷宿の本陣竹井家を継ぎ、竹井家の14代当主となりました。政治に深く関心があり、地方実力者の養成に努め、中央政界の大隈重信、板垣退助、陸奥宗光らとも親交があり、陸奥宗光に働きかけて熊谷県誕生に尽力したことで有名です。教育面でも渋沢栄一らと協力し、育英事業にも貢献しました。初代の県議会議長となり、産業・土木面でも大きな功績を残しました。



澹如は、慶応年間に鎌倉町に別邸を置き、池亭と回遊式庭園を設けました。ここには、昭憲皇太后や大隈重信、徳富蘇峰などの名士が来遊し、現在は市指定名勝「星溪園」となっています。

また、荒川の氾濫を防ぐため万平出しを築き、現在もその形跡が残されています。その地は万平公園(万平町)となり、その園内には、澹如の功績を讃えた市指定史跡「竹井澹如翁碑」(左写真)を見ることができます。大正元年(1912)、澹如は、73歳で永眠し、熊谷寺に葬られました。その後、墓地は市内大原に移動され、「竹井澹如墓」は市指定史跡となりました。今でも多くの参拝者が訪れています。



文化財コラム 古代との遭遇・第10話

米作りの初め②—横間栗遺跡②—

1号再葬墓の奥、北約5mの位置に1号再葬墓とは内容が大きく違う2号再葬墓が検出されました。一辺110cm、深さ30cmで隅丸方形の土坑で、北から南の東壁に沿って中型・大型・中型・大型の順に4個の壺がもたれあうように並んでいました(右写真)。砥石(といし)、磨石(すりいし)、骨片等が出土しています。群中では最も新しい様相を示しています。




横間栗遺跡のある別府から北方の飯塚にかけては、櫛挽台地の縁から水の湧き出した別府沼が北上し、東側に後背湿地が広がります。西側には自然堤防が発達しています。ですからここで米作りをするには、水を引く技術は簡単で、水を抜く技術だけがやや難しいものの、比較的容易に開始できる要件を備えていたと考えられます。

実は、埼玉県内での米作りは、最も古くこの別府沼から福川にかけての妻沼低地で開始された可能性が非常に高くなっています。時代は弥生時代前期。縄文時代に後続し、米作りとともに始まる時代です。そして別府沼から福川にかけての妻沼低地で開始された米作りは、徐々に荒川の造りだした熊谷扇状地末端の湧水地帯へと拡大されていきます。

この地で始めて米を作り始めた人々は、どのような気持ちで立ち向かっていったのでしょうか。自分たちの技術だけでなく、自然の力に大きく左右され、きっと不安がいっぱい、いや不安だけで挑戦していたのではないのでしょうか。それを物語るように各地で米作りの開始時期に限定された墓にまつわる祭祀の形が登場してきます。それが再葬墓なのです。

◇ 国宝を見に行こう！ 歓喜院聖天堂のご案内

歓喜院聖天堂	場所・問合せ	交通アクセス	拝観料	公開日時
	住所： 熊谷市妻沼 1627 電話： 048-588-1644 (寺務所)	バス利用の場合： JR熊谷駅：朝日バス(6番乗り場)～太田駅行・妻沼聖天前行・西小泉駅行～「妻沼聖天前」下車	700円 (小学生以下は無料) ガイド解説付き 境内入場は無料	原則として毎日 10時から 16時30分 (受付は16時まで)

編集後記

7月9日、妻沼聖天山の本殿である「歓喜院聖天堂」が国宝に指定されました。平成15年から実施された平成の大修理では、250年前の彩色の再現が最大の課題でした。傷んだ彫刻の塗料片から顔料や漆の種類などの科学的分析を行い、また残存していた彩色の保存も重要なテーマであったことから、和紙で彫刻の表面をコーティングした上に新たな彩色を塗るという最新技術が用いられました。江戸時代中期における最高水準の彫刻技術と、現代における最新の識見の見事な融合をそこに垣間見ることができます。

今回の国宝指定を機に、市内外から多くの方々々が歓喜院聖天堂を訪れています。是非、皆さんも極彩色の彫刻を堪能してみてくださいはいかがでしょうか。



発行：平成24年7月25日

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

文化財の紹介、ブログ「熊谷市文化財日記」、「BUNKAZAI情報」カラー版などを豊富に掲載